

(⇒表からの続きです。)

これは大変なことになると思った瞬間、腹がゴロゴロなりだしたのです。人間はデリケートなもので、精神的動揺（ドウヨウ：不安で落ち着かないこと）はすぐ体調の変化に結び付くようです。2時間くらいガマンしたのですが、もうどうにもならなくなりました。ショーを見ながらの豪華な夕食もほとんど手をつけることができませんでした。おばさん（おじの奥さん）に「どうしたの？」と聞かれても「なんでもない」と言ってごまかしていたのですが、お腹は早くトイレに行かしてくれとばかりに、ますますゴロゴロ悲鳴をあげてきます。デザートでたしかアイスクリームが出た瞬間、ガマンできなくなってトイレに駆け込みました。

大の方の小部屋に入り、しゃがんだ瞬間、こらえていたものがほとぼしるような出たのです。驚くばかりのすごい量だった記憶があります。人間ってゲンキンなもので、出た瞬間、なんでこんなことでクヨクヨしていたのかバカらしくなってきました。さあ、これであの食べてなかった豪華な食事を心おきなく食べられるゾ！と思った瞬間（瞬間という言葉が何度も出てきて読みにくいと思いますがガマンしてください）、新たなピンチに陥った（オチイル：悪い状態になること）のです。流し方がわからないのです。昔の水洗トイレは、今のようなレバーやボタンではなくて、天井の方から下がっているチェーンを引いて水を流すものだったのですが、もちろんそんなことは知るよしもありませんでした。もうどうしようもなく、途方にくれている（トホウニクレル：どうしていいかわからなくて迷うこと）と、いそこ（おじの子どもで6歳）が私を探しにきました。「お兄ちゃん（私のこと）、具合が悪いの？大丈夫？」と小部屋の外から聞く声がします。心の動揺を隠しながら、「大丈夫、大丈夫！すぐ行くから戻っててよ」といそこを帰しておいて、ウ○コを流さず、そのまま戻りました。私の心は、流さないウ○コのことではいっぱいです。何かとんでもない犯罪をしてかしたような気がして、ごちそうもやはり食べられませんでした。

寝る時間になり、布団にはいりましたが、心配で心配で眠れませんでした。何度か目が覚めたりしているうちに朝になりました。顔を洗うとさっそくトイレを見にいきました。恐る恐る小部屋のドアを開けると、やっぱりウ○コがそのままあったのです。「やっぱり」という気持ちと、「誰にもまだ発見されていなくて良かった」という安心した気持ち。その日は、1時間おきくらいに見に行きました。そうして何度か見に行ってるうちに、私の心に微妙な変化が表れてきたのです。ウ○コを見るたびに、情けない、犯罪をおかしているような気持ちだったのが、しだいに、なんか懐かしい友人にでも会うような気持ちになってきたのです。「あー、まだあってくれたか」という気持ちです。

そして午後5時頃。見にいったのは5～6回目くらいだったと思います。当然あるものとして小部屋のドアを開けたら、ないのです。この時の気持ちはまたまた言葉では言い表せない複雑なものでした。「良かった」という安心した気持ちと、「とーとーなくなってしまった」という寂しい気持ち。しかし、この時以来、しばらく私は水洗トイレが苦手となってしまったのです。

人生にはいろいろなことがあります。そして、好む好まざるにかかわらず、それを引きずっていくことになります。とすれば、いい思い出だけをひきずっていきたいと思うのは誰しも同じです。しかし、いい思い出になるかはたまた思い出したくない苦いものになるかは、自分自身の対処（タイショ：物事に応じて適当な処置をとること）の仕方によることが多いのではないかと私は思っています。何かに初めて触れた時、あるいは出会った時には、やはり素直に、そして謙虚になることが一番いいのではないのでしょうか。知ったかぶりをすることなく、頭から否定もしないで。もしかすると、自分の将来に大きな影響をあたえてくれるかもしれませんし、「変なやつだなあ」と初めて会った時に思ったとしても一生の友達となるかもしれません。私は、みなさんに「初めての出会い・経験」を大切にしてもらいたいと思います。

【今日のひとり言】

●きょうの学校だよりは、びろう（ビロウ：はばかりれること）な話になって申し訳ありません。だからというわけではありませんが、似顔絵の代わりに校章にしました。こんな話の時に、私の似顔絵を描いてくれた人に申し訳ないと思ったこともあるのですが、実はすでに手持ちの似顔絵はありません。生徒のみなさんもそうですが、保護者の方で、もし描いても良いという人がおりましたら、是非お願いしたいと思います。